

科目名	総合課題探求Ⅱ（応用） Comprehensive practicum c (advanced)			担当教員 (研究室番号)	大川 明子 安部 彰 浦野 茂 大平 肇子 鈴木 聡美 森下 直紀		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	4年後期	科目 区分	総合科目			選択 区分	必修	単位数 (時間)	1 (15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
												オープンクラス	否
科目 目的	看護専門職として倫理的な視点から現象を捉え、行動できる基礎的能力を養う。人々の生活を枠づける社会関係・制度を理解し、その枠の外においてなお多様である（べき）人間の生への想像力を発揮しつつ、看護をとらえなおす力を養う。												
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。（姿勢・態度）											
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解） G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。（関心・意欲）											
到達 目標	1. 事例（状況）に埋めこまれた倫理的課題に気づくことができる。 2. グループメンバーと共同して倫理的課題を探求する姿勢が身についている。 3. 探求のプロセスとその成果を明快に伝えることができる。												
成績評価方法 (基準)		グループディスカッション20% 授業後のミニレポート(2-6回 計5回分) 20% 最終レポート20% グループ発表 40%											
再試験の有無と 基準等		なし											
教科書		なし											
参考書等		授業時に適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		医療・ケアとそれを取りまく環境の複雑化を背景に今日では「多様な意見・信念をもつ他者と共同しつつ問題を探求する力」が医療者にはますます求められている。本授業では、ピア・エデュケーション（受講生間での主体的・相互的な学び）を基調とした倫理的課題の共同探求をつうじて、その力を養ってほしい。そのために探求において重視してほしいのはグループメンバー間での対話だ。対話をつうじて各自の意見（信念）の相互吟味を深めれば深めるほど、その探求はダイナミックに進展していくだろう。											
備考													
回	学習項目				学習内容						主担当 教 員	授業 方法	
1 回	イントロダクション				授業の目的等をちゃんと理解・共有する。						安部 他 5 名	講義	
2 回	事例における倫理的課題の検討 1				事例の現象や登場人物の状況を理解する。						大川 他 5 名	演習	
3 回	事例における倫理的課題の検討 2				事例の探求（知識の獲得）						大川 他 5 名	演習	
4 回	事例における倫理的課題の検討 3				事例の探求（意見交換）						大川 他 5 名	演習	
5 回	事例における倫理的課題の検討 4				事例の探求（まとめ）						大川 他 5 名	演習	
6 回	発表準備				発表準備 各グループごとに発表内容を検討し、資料を作成する。						浦野 他 5 名	演習	
7, 8 回	検討内容の発表				各グループごとに検討した内容を発表する。						浦野 他 5 名	演習	

学 習 課 題

実務経験を活かした教育の取組